

# 磐城大衆新聞

毎月二回 一日十五日發行  
定額 一月十錢  
廣告 一行十錢  
發行所 磐城大衆新聞社  
編輯人 長谷川兵衛  
印刷所 磐城大衆新聞社

## 戰雲は磐陽の天地を覆ふ

### 闘士陸續として來りて 舌戰今や酣なり

#### 誰か光榮ある勇士？

天下分岐線上に樹て朝野二大政選挙権の行使は、嚴然として何黨は相互に其秘策を練つて我黨物にも動かぬ、上長の干渉、醜態をして、第一黨の榮冠を得るも、買収、汚れたる誘惑、有利なるのなりと、未だ獲ざる狸の皮算る交換條件等々によりて誤れる用之如くである、然れども死物な、誤りて立憲治下國の國民に狂に成つて秘戰密術を盡すも決して恥辱であり、其悔恨を永遠にして遇然ではあるまい。

朝に其の効顯大なるを説き、夕に虚偽なる反對説を高張する舌戰こそ觀物なれた、與黨民政黨選第二次戰を清く明るく、男性は、現今の如く國民の生活上に的に敢行せよ。

不安と恐怖を興へたるは、政友會内閣當時に於ける無責任なる放漫政策と、深甚なる考察の下に國政を善處せざる結果が即ち今日に到らしめたるものである、不景氣の本家は政友會である、選舉民諸君よ、我黨の主義政策に共鳴せよ。

唯一の野黨たる政友會は、曰く積極政策と國民生活の安定し得るの好景氣は、我政友會の專賣特許であり、消極不景氣國民生活の不安を醸成せしは無定見なる濱口内閣を倒潰するによりて八千萬同胞を眞に救ひ得るものである、故に諸君は我が政友會の主義政策に強調せよと、國民の正義の說を容れて自己の神聖たるべき一票の選舉權を行使し得る乎。

唯吾人は磐城の天地に生れたる四候補の政戦況を記して冷靜にして、賢明なる選舉區民に訴ふものである。

諸君よ、諸君は諸君の保持せる

比佐昌平君（前代議士）  
立憲民政黨公認候補者、人も知る如く石城郡湯本町の出身、彼の早稲田の杜の政治學を終り、藥王の星一氏と一騎打をして、例の大正十三年五月若冠にして、代議士の榮冠を得て、更に普通選挙の一次の田中内閣當時に再度民政黨より代議士に當選せし俊才である。

今解散となるが、反比佐派として目された野崎派の面々、勇敢にも公認候補を主張し、其結果は石城民政黨をして二分せしむる醜體を演じて、同氏の政戦上に一大支障を齎したのである、然れども小警州を以て崇拜せる多數の支持者は嚴然として、野崎氏の態度に飽き足らずと、比佐氏を擁立して本郡公認とし、快然として政戦を開始せり、即ち事務局長萩原義雄氏並びに若松縣議、吉田二氏其他の幹部等が此の一戦をして石城民政黨の興廢に存する大政戦である、背水の陣を敷きて、悲壯なる決心の下に進軍のラッパを鼓して戦ひつゝあり、有聲座一派の民政黨は茲に前回落選の浮目に逢ひ、平町に事務所を開設して其一黨をひきかへて言論戦に入りたる結果、固く比佐氏の地盤も即ち同志打の混戦状態に陥つたのである、比佐崇拝黨は一度彼れを中央議政壇に送り、一層其地を陥入りたるを聞く、切に健闘を祈るものである。

氏家 清君  
立憲民政黨公認候補者、双葉郡津島村出身にして青年時代より政治に志し常に國家の大局に眼

## 大衆片々

▲天下分岐線上の一大政戦なりと白熱化せり。

▲其結果を以て二大政黨の興廢に存する大政戦を悲しむる者多し。

▲國民は堅實なる、政策の現實化にして生活の安定を企圖せよ。

▲石城民政黨、其部會をして二分して、二つの部會長、二つの幹事長を作りて、本性を異性で争ふ。

▲民政クラブに會合せし、を本性にして、有聲座に籠城せしは異性なり。

▲異性民政黨、は遂に比佐氏を見捨てる、相成の天地より出馬せる氏家清候補を擁立して全力を注ぐ。

▲天下の政治家、野崎滿藏君をして將來の決戦期迄突入せしめたる本性民政黨の幹事長萩原義雄君の辛辣たる手腕を稱する人ありしが眞乎。

▲野崎君の熱心恰も昇天旭日の感して、比佐昌平氏の地盤を蠶食せられて、當落の分岐点に停立す。

▲比佐危し、この聲、磐城大に奮闘を要すべし。

▲三度中央議政壇に送られ、定は最後迄も確守し得る哉否か能す、強ひて其優秀を推定せん、四候補が石城郡に全力を傾注し、比佐派の如きは木村、氏家兩老政治家として人格手腕力量を要する、然れども五日間に如何に變化轉々する乎、神ならぬ吾人は知らず。

各候補者の御奮闘を禱るのみで（長谷川紫水）

▲無意味の  
會津若松の藝妓が同市の小學兒童中畫食もしかねる哀れな事實に同情して白米一俵を、若松第三小學校に寄附したそうである、誠に奇篤な事だと思ふ。

▲書食もしかねる、貧家の子弟に藝妓家業に身を落したと云ふ、此の事は腹のすいた者同志の間に行はれた美しい物語りで無限の味がある。

▲せよ而して國民の安寧を保障せよ、爾は即ち汝等の使命と義務に非ず乎。

▲〇〇を亂用して、〇〇を盛んに散行せし、〇〇の聲を往々耳に、果して事實をせば、吾人は大に當局者をして反省考慮に促すものな非ず哉。

▲會津若松の出来事なれど、此の寒空に食する今日の糧も、なく、中食を食し兼ねるの窮狀を呈せり。

▲社會の下層の此の如き悲劇は、生活難の生める副産物か、此の悲しき姿を眺めて紅燈明暗に映く、藝者第三學校に白米一俵を送りて、同情の意を表せり。

▲近時頗る稀れに見る美談なりとす。

▲藝者自身が三度の食を攝り兼ねて身賣りせし程の乏しきを家庭ありしを偲び、此の壯舉を決定せしものなり乎。

▲現今、令夫人とか貴婦人とか申す奇形兒に等しき女性よ、浪費放漫なる家庭生活を顧みて何ぞ恥なき哉。

▲一週ならずして、天下の政戦も決算されんとす、清き一票の人々よ、誤りたる行使をするな。

▲醜き買収や、卑劣なる誘惑に陥らず、自己の信頼する聖人君子をして中央に送れよ。

